Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

明治四年に開設された亜米利加婦人教授所

－婦人宣教師ミセス・プラインの「おばあちゃんの手紙」を中心に－

小林　恵子（国立音楽大学）

Ⅰ　研究目的と方法

明治四（1871）年、開港まもない横浜で当時、社会問題となった混血児の養育と女子教育のため、三人の米国婦人宣教師が来日し「亜米利加婦人教授所（アメリカン・ミッション・ホーム）」を開設した。これは後に女子教育機関（現・横浜共立学園）として発展するが、最初は家庭的組織を持った塾舎として幼い混血児を養育し、女子教育を行った。日本の幼稚園、保育園が設立される以前にあって、このホームが果した役割は幼児保育の発芽として、「子どもの人権」を守る側面から大であったと考える。今回は創設者の一人、婦人宣教師ミセス・プラインが孫に宛てた「おばあちゃんの手紙」29通を読み、このホームの教育について考察する事を目的とした。

Ⅱ　考　察

（1）横浜に来た宣教師と女子教育

開港（安政6年）した横浜に最初に来た宣教師はヘボン、ブラウン、バラなどであった。この人々は病院の設立、聖書の和訳、和英辞書の編纂など日本の近代化に開拓者的役割を果した。宣教師夫妻が日本に来て驚いた事は男尊女卑の封建社会のなかで女子の社会的地位が低く女に学問は無益とされていた事である。こうした現状に女子教育こそ緊急と考えたのが宣教師たちであった。日本で最初の女学校、フェリス女学院（明治3）の次にこのホームが設立され、女子教育に先駆的役割を果した。

（2）混血児の問題と米国婦人一致外国伝道協会

当時、横浜でラシャメンと称する日本女性と外人の間に生まれた混血児が社会問題となり、多くが私生児として軽蔑され忌み嫌われた。この問題に心を傷めたのが先の宣教師たちである。バラ宣教師は混血児の救済と日本の女子教育の現状を米国の基督教会に訴えた。

当時の米国は1861年の南北戦争を機として、人格の尊厳、自由平等、社会改良の精神が盛んとなり人道主義に基づく様々な運動が行われた。やがて広く世界に目を向け人種や国境を越え人々を援助しようという気運が高まり、米国プロテスタント各派の諸教会は外国伝道の使命にもえ、アジヤの諸地域に宣教師を派遣した。

横浜からの混血児の救済の訴えに応じたのが「米国婦人一致外国伝道協会」（The Woman's Union Missionary Society America, 略してW.U.M.S）である。この協会は1861年、ドリーマス夫人を会長としニューヨーク市に創設、東洋の婦人と子どもの伝道、教育、福祉のため全米の教会婦人会が教派の違いをこえ一致協力して婦人宣教師を東洋に派遣した婦人たちの団体であった。

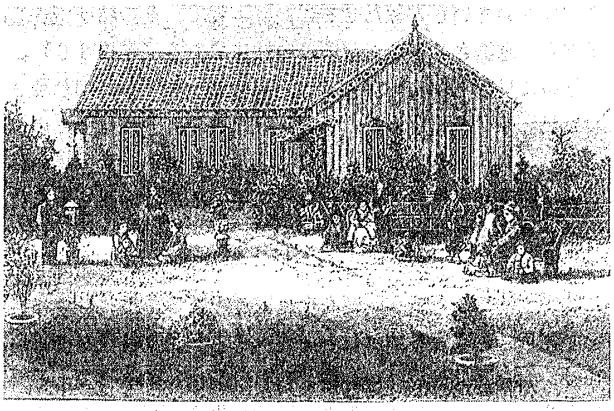
（3）日本に派遣された三人の婦人宣教師

代表者、ミセス・プライン（Mary Pruyn）は最年長の51歳、教会のアルバニー支部副会長、職業学校、日曜学校教師で「おばあちゃんの手紙」の著者。ミセス・ピアソン（Louise Pierson）は39歳で未亡人、4人の子を次々と亡くし、この悲しみを乗り越えようと教育事業に捧げ日本への派遣に応じた。ミス・クロスビー（Julian Crosby）は大学教授の娘で三人のなかでは一番若く37歳の独身女性。いずれもニューヨーク州生まれであった。サンフランシスコから「日本丸」で太平洋を横ぎり約40日の船旅で横浜に到着（明治4年6月25日）、動乱期の社会事情に加えキリスト教禁制下にあって婦人宣教師の派遣は命をかけた危険なものであった。

（4）亜米利加婦人教授所（ホーム）と中村正直

明治4年8月28日、山手48番のバラ宣教師の持家を借りホームは開設された。最初は入塾者が少なく、同年10月に中村正直（敬宇）がここに10日ほど滞在し生徒募集の「広告文」を書いている。その文に「現今小児四人アリテ」と少数であるが混血児の養育がなされていた事、婦人宣教師たちの子どもへの接し方が「実母実子カト疑ハルルホド」とあり「日本人、外国人ノ差別ナク」「3歳以下デモ母ガイナケレバ引キ受ケル」とし教育と福祉の両面を備えた施設である事がわかる。中村がよほど心を動かされたらしい事は自分の娘や一族の娘たちをホームに入学させ援助した事からも明らかである。

やがて、同年末には生徒数が増え（混血児14人）註(1)広い土地と建物を求め翌年10月、山手212番（写真参照）に移転、女子のみの学校として発展していった。



亜米利加婦人教授所（アメリカン・ミッションホーム）
山手212番（明治5年10月に移転）の校舎

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

（5）孫への「おばあちゃんの手紙」

「おばあちゃんの手紙」の著者、ブラインはホームの総理として、ピアソン、クロスビーの持ち味を大切に生かし、全体を統率し学校経営を軌道にのせた人である。温かい人柄はホーム全体の精神的母として子どもや生徒だけでなく召使にまで慕われた。

同8年10月、病気のため帰国するがニューヨークのアルバニーに住む孫たちや日曜学校の生徒などに宛てた29通の手紙は「Grandman's letters from Japan」の名で後に一冊の本として出版された(1877)。その内容の目次は別紙（発表当日配布）の通りである。原文は横浜開港資料館にあり、その多くは私の訳で「幼児の教育」雑誌で紹介している（註2）。　最初のほうにブラインが子どもだった頃、日本の美しい調度品を展示会で見て東洋にある日本に憧れた事、後に使命を帯びて日本に派遣されるいきさつを書いている。又、日本の文化や風習、遊びや祭り、子ども達の性質の良い事、静岡や箱根への旅など、ユーモアに富んでおり、混血児の子どもへの愛情が手紙でうかがわれる。

（6）ホームにおける混血児の養育

混血児の養育は明治24年9月まで20年間続けられ廃止された。「おばあちゃんの手紙」にはキャリー、ジョージ、エディー、アニー、ノナ、ミニー等の子ども達が登場し、宣教師たちが我が子のように可愛いく思って育てている姿が記されている。子ども達と少女たちが共に庭園でお茶会を開きゲームをしたり、米国からの贈物でバザーを開くとか、暑い夏を江ノ島の海辺に民家を借りて過ごす等、自由で明るくユーモアに富んだ家庭的なホームの教育が手紙から読みとれる。財政的に乏しいなかで婦人宣教師たちは機知と工夫をこらし、クリスマスにポップコーンを飾って皆を喜ばせる等、少しでも日々の生活をより豊かに楽しませるよう努力している。日本の民家を借り靴をはく等、滑稽と思える西洋流の行儀作法もみられるが、規則正しい生活、キリスト教を基盤とした道徳など、厳しいなかに愛情にみちた躾が身をもって教えられた。また、子ども達に讃美歌が教えられ、病気の父親を見舞った子が歌を歌って慰めるなど西洋音楽がいちはやく日々の生活に楽しく導入されている。ホームでの混血児の養育は無償で行われ、専用の子どもの寄宿舎が建てられ（明治7）、後には留学する子もでている。

（7）幼児教育の草分けとなった人々の輩出

ホームで宣教師と接し学んだ生徒から我が国の幼児教育、女子教育の草分けとなった人々を輩出したことは興味ぶかい。桜井ちかは東京麹町に桜井女学校を創立し、日本で最初の私立幼稚園を設立（明治13）。二宮わかは、横浜に相沢託児所、中村愛児園を設立し児童福祉の先駆者として活躍。　西田けいは渡米して医学を修め、看護婦養成に努め育児学に力を入れ、頌栄女学校と幼稚園を設立した。

また、ホームでの祈禱会に出席し婦人宣教師と接していた関信三は後に東京女子師範学校附属幼稚園長として幼児教育に貢献した。更にこの後、ホームに来たミセス・ツルーは桜井女学校に日本で最初の私立の保母養成課程を付設（明治17）した。ホームに学んだ人々が日本の黎明期に女子教育、幼児教育に果した役割は大きい。

（8）亜米利加婦人教授所（ホーム）の果した役割

明治初期の動乱期にあって欧亜の混血児の養育は日本の行政から全く無視され放置され、世間の人々からは社会の恥として怪蔑されていた。こうした時代に海を越え危険をおかし、人種や貧富の差を越え日本の言葉の習得の困難にもめげず、子ども達の養育に携わった婦人宣教師たちの果した役割は今日「子どもの人権」を守る視野からも改めて見直されるべきものがある。又、女子には学問は無益とされていた時代に女性を一人の人格として学校教育を開始した事は女子教育の先駆として高く評価される。ホームでの婦人宣教師たちの信仰と人道主義に基づく開拓者的精神、親身な子ども達への世話と愛情が卒業生に感化を与え、自ずと女子教育、幼児教育、児童福祉の仕事に草分けとなった人物を輩出させたのではなかったか。国際化の現在にあって 120年も以前の亜米利加婦人教授所が今あらためて見直されるべきと考える。

註(1)「横浜共立学園 120年の歩み」横浜共立学園 1991

(2) 小林恵子「婦人宣教師ミセス・ブラインの『おばあちゃんの手紙』」「幼児の教育」 1992-4, 6, 8, 10, 12, 1993-3, 4, 6, 8, 10, 12, 1994-2月號に掲載

＊写真「おばあちゃんの手紙」の本の最初に掲載
「横浜共立学園 120年」写真集　34頁 1991

＊参考資料　小林恵子「日本で最初の私立幼稚園の誕生に貢献した婦人宣教師　アメリカン・ミッション・ホーム（現・横浜共立学園）を起点として－
国立音楽大学研究紀要第十八集　1984

ミセス・ブラインと混血児たち

NII-Electronic Library Service